

向こう3軒両どりのまちづくりを考えてみよう

まちをすみやすくするためには、身近なところからまちづくりをすすめていくことが大切です。そしてそのためには、地域ごとに存在する身近な団体である自治会・町内会が重要な役割を果たすことができるのではないかと思います。そこで編集会議で何人かの町内会長さんにお話を伺い、地域の身近なまちづくりについて考えてみました。

これからの地域福祉は向こう三軒両どりが大切だ

身の回りで次第に多くなる高齢者には日常的な気づかいが必要で
す。また、災害時には安否確認を行うため地区の様子をよく知っている
人たちの手助けが必要になります。

地域の一人暮らしの高齢者に週1回配食サービスを行なっているボ
ランティアグループでは、ある時、食事を届けに行っても応答がない
家がありました。次の週も応答がない。おかしいと思って大家さんに
開けてもらったら、すでに亡くなっていたのです。このボランティア
グループは、「これからの地域福祉で大事なものは、向こう三軒両ど
りのコミュニケーションだ。それを支えていけるのが自治会・町内会
だと思う。そして自治会・町内会で対応できない場合は、私たち福祉
ボランティアに声をかけてほしい。お互いにできることを補いあっ
ていきたい。」と考え、地元の町内会との関係づくりも積極的にすす
めています。

災害時の避難に関しても、ある町内会では、各地区ごとに決められ
ている一時避難場所に集まるさいに、班長の役割は班全体を見ること
とし、高齢者や子どものいる世帯に対しては、別に安否確認に行く人
を決め、いっしょに避難するようにしています。こうした安否確認が
365日を通じて日常化すること
が地域福祉にもつながっていく
のだろうと考えています。

自治会・町内会は福祉、 子ども、まちづくりなど 幅広いテーマを取り扱う

このように、身の回りにはさまざまな課題が同時に重なりあっ
ています。これらの課題を解決し安心して住める快適なまちを作り上げて
いくには、向こう三軒両どりのきめの細かいコミュニケーションや
住民相互の協力が大切です。

もちろん、近隣の住民同士が個々にコミュニケーションをはか
ったり協力しあったりすることも大事ですし、地域にはひとりでもできる
まちづくりやボランティアもあります。しかし、個人ではなかなか力
の及ばない課題解決に取り組むためには、やはり地域に密着した組織
の役割が重要になってきます。



自治会町内会

自治会町内会は、それぞれの地
域に起こる問題を解決し、さら
に、地域住民相互の親睦を促進す
る目的で組織された、自主的・民
主的な団体です。横浜市には現在
2,700を超える自治会町内会が組
織されており、市内の約9割の世帯
が加入しています。

自治会町内会では、会により違
いはありますが、環境整備・社会
教育・レクリエーション・福利厚
生・文化・広報等の事業を行っ
ています。具体的には防犯灯の維持
管理、清掃活動、子供会、運動
会、敬老会などです。また、活動
を行うための集会施設として会館
をもっているところが約7割ありま
す。

横浜市では、防犯灯管理費の負
担軽減や地域活動の拡充のため
に、「地域振興協力費」を配付し
たり、自治会・町内会館整備補助
を行っています。一方、広報紙の
配付やさまざまなお知らせの回覧
をお願いしたり、消費生活推進委
員・体育指導委員・青少年指導
員・民生委員児童委員・保健指導
員・家庭防災員・環境事業推進委
員・統計調査員などを推薦してい
ただいたりしています。(賀谷)

地域に密着した組織として自治会・町内会、商店会、PTA等のさまざまな団体が活動していますが、町内会や自治会はその代表的な組織です。そして「自治会・町内会は福祉、子ども、まちづくりなど幅広いテーマを取り扱う。オールマイティーでないといけない。そこが他のボランティア活動などと違う。」とある町内会長さんがおっしゃるように、自治会・町内会は、地域で重なり合うさまざまな課題に総合的な視点から取り組むことができるのです。

福祉サービスの情報などは広報に出ているけれど.....80%の住民は知らない

自治会・町内会には、行政から広報配布、回覧、防災などさまざまな仕事があります。それだけ、自治会・町内会にはさまざまな情報が集まってくるのです。

しかし、ある町内会長さんは「例えば、高齢者への福祉サービス（入浴サービス等）としてどんなものがあるかは広報にも出ているけど、あるとき調べてみたら80%の住民が知らなかった。」と言います。また「行政からの配布物はかなりの量になるが、字が多いほど読んでもらえる確率は低い。絵を使うなど、なるべくわかりやすくしてもらった方がいい。」という指摘もありました。文字情報中心のこの情報誌「ヨコハマ 人・まち」としても耳が痛い限りです。

情報化の時代と言われ、情報が氾濫する一方で、地域のまちづくりに関連する情報の流通にはまだまだ課題があるのが実状です。それでも、より情報を流通させるための町内会の工夫もあります。例えば、「なるべく住民全体に伝えるためには、目立つように工夫することが重要で、掲示をよく利用する。行政からの情報が多いため3日掲示したら次のものに貼り替えなければならないほどだが、それでもけっこうみんな気がつくようだ。」という話もありました。

さらに、行政からの印刷物を回覧板で回すときには、内容をわかりやすく説明したコメントを必ず書いてつけるようにしている、という町内会長さんもありました。

このように工夫すれば情報は流れやすくなります。しかしそれだけで十分とは言えません。情報は必要なときにしか情報としての価値をもたないといった皮肉な面を持っていることも事実なのです。つまり福祉サービスの情報は、それを必要とする状況になって初めて重要な情報として認識されるのです。そして、地域に密着した自治会・町内会のような組織では、住民一人ひとりが必要なときに必要な

情報を手に入れることを手助けすることもできるのではないのでしょうか。

情報を効果的に流す工夫と、きめ細かなコミュニケーションがあれば、自治会・町内会は、地域のまちづくりの情報センターとなる可能性もあります。

20世帯ほどの単位で見守りあう

それでは、さらにきめ細かなコミュニケーションをどのようににはかっていくかを考えてみたいと思います。町内会長さんからは「地域のことを一生懸命考えるには、せいぜい300世帯から500世帯が限度で、そうでないと福祉の問題もうまくいかないだろう。」という意見もありました。例えば、災害がおこったときのために学校が避難場所となっていますが、避難場所に行く前に助けあえることが必要で、100世帯ぐらいに細分化した単位なら、高齢者や子どものいる世帯を日常的に見守ることも可能になるのではないか、ということです。

町内会や自治会の規模はさまざまですが、よりきめの細かいコミュニケーションをはかるため、組織をさらに細分化するなど工夫をしている例もあります。

「福祉サービスの情報がいざ必要というときには、本人が自ら情報を手に入れられる状態でないことも多い。そのためにも20世帯ぐらいの単位で見守りあうようにして、何かあったら、町内会長や民生委員にも知らせてもらって、必要な情報提供や相談にのれるようにしている。町内会長の役割は、地域の交流をはかりながら、こうしたニーズを拾いあげることだろう」と、ある町内会長さんは話してくれました。

自治会・町内会を班に分けることは一般に行われていますが、効果的な活動は自治会・町内会の班のような小単位のグループのほうが、やりやすいし実際的であるようです。



下地を作るのは根気がいる

近隣にどのような人が住んでいるかすら、お互いよく知らないことが多い今日の地域社会で、住民相互のコミュニケーションや交流をはかることはそれほど簡単ではありません。ある町内会では、民生委員からの提案で、月に一度、町内会館を開放して「ふれあいの日」を設けています。七夕では、お年寄りが子どもたちに七夕飾りのつくり方を教え、婦人部が料理をつくりまします。世代間の交流をどうはかるか、町内会の中の活動をどう横につなぐかを考えているのです。

「避難訓練では消防車を呼んで子どもたちを乗せてあげる。子どもたちがくれば母親もついてくる。母親が来れば父親も・・・。」下地を作るのには根気がいるのです。

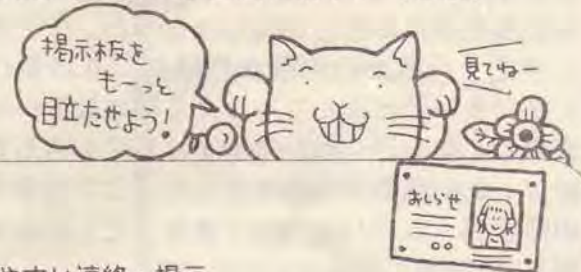
まちづくりは、地域住民が連携して行なうもの

まちづくりは、地域の住民が連携して行なうものです。

「ヨコハマ 人・まち」では、これまでさまざまなテーマからのまちづくり活動を紹介してきましたが、今回、町内会活動について伺ってみると、地域のコミュニケーションを活性化する試みや、きめの細かいコミュニケーションや住民の相互協力を促す工夫が行われていることがわかりました。

地域のまちづくりにおいて、地域のさまざまな課題を、住民の自主性にもとづいて総合的に取り扱う自治会・町内会の役割が、今後ますます重要になってくるのではないかと思います。

また、自治会・町内会のように地域に密着した活動と、さまざまなテーマごとに繰り広げられる活動は、どちらも地域のまちづくりをすすめていくためには不可欠な活動です。そして相互に補いあうことの必要性も実感されつつあります。しかし「オールマイティの町内会活動と、福祉ボランティア活動などが、どのようにかみあうことができるのかが課題だ。」という意見もあるように、具体的にどのように補いあうかは、これからそれぞれの地域で試みられるべきであり、その試みの中から、向う三軒両どりのまちづくりを支える仕組みができていくことが望まれるのではないかと思います。（谷口）



<地域まちづくりヒント集>

自治会・町内会に限らず、活動を活性化し、さまざまな人の参加と交流を促すことが、まちづくりには大事です。今回お話を伺った町内会の工夫も参考にまとめた、地域でまちづくりを進めるのためのいくつかのアイデアをご紹介します。

□多種多様な行事

必ず全員が参加することを考えてもなかなか難しいものです。様々な行事を企画して参加しやすい状況を設定する方法もあります。

□子どもの喜ぶイベントは大事

子どもが参加するイベントには親も関心をもちます。家族ぐるみでの参加につながることもあります。

□あいさつは基本

顔見知りの人とあいさつすることで人間関係が始まります。まず、自分が住んでいる地域で「隣三軒両どなり」からはじめましょう。

□世代を超えた交流

子どもから高齢者までが参加できる、世代間交流の場として「七夕」や「お月見」等、昔からの伝統・文化を伝えることができるような行事を定期的に設けることで同じ地域に住んでいる実感を体験するのもよいと思います。

□わかりやすい連絡・掲示

多くの人に知ってほしいお知らせは目立つように掲示したり、目的がはっきりわかる文書を作しましょう。イラストの活用も効果的です。

□行事の後の報告

行事やイベントを行った後には簡単でもいいから必ず報告しましょう。報告することによってその行事の内容や参加の様子を知ることができ、次回の参加につながることもあります。

□支えあいの仕組みを作ろう

災害時、緊急時に備え、地域の避難訓練の機会に高齢者世帯などの安否確認をする人を決めたり、平時から心がけるようにすることで、いざと言う時に役立ちます。また、地域の組織だけではなく、訪問ボランティアやまちづくり活動グループ等、様々なネットワークを活かし、連携を図れるようにすることで、他地域との交流や情報の交換もできるようになります。

□雑務は効率的に

連絡調整や行事の準備などまちづくり活動には雑務がつきものです。特に活動の中心となる人に雑務も集中してしまいがちです。雑務に忙殺されないように、効率化する工夫をしましょう。

都市計画局では、これまでも実験的に市民のまちづくり活動に資金助成をしたり、市民とともに交流フォーラムを開催し、まちづくりにかかわる市民活動や各局区事業を紹介したりしてきました。今年度は「まちづくり活動支援事業」として、この情報誌の他にも市民・行政の様々なまちづくり活動の交流をはかったり、具体的な地域のまちづくり事例を調査研究することとしています。これらを相互に関連づけながら、全体としてパートナーシップによる地域の総合的なまちづくりを推進していこうということです。

このような取り組みのなかで、市民の側でも様々な交流が生まれ、平成8年度に開催したフォーラム「ヨコハマひと・まち横丁展」では横浜市を大きく4つの方面

(北部・中部・南部・西部)に分け、横丁展終了後も参加した市民がそれぞれの方面で交流を続けています。また、森づくりや川づくりといったテーマ毎の市民活動の交流もあります。

この情報誌では、こうした交流がそれぞれの活動の学び合いに重要であるとの認識から、これらのネットワークの動きや行政の事業を紹介していきます。

また今年は11月に「ヨコハマ都市デザインフォーラム」という国際会議が予定されており、その中の「市民まちづくり会議」では行政も含めた活動紹介と交流の機会をもうける予定です。さらに具体事例の調査研究も含めて、情報誌でも紹介していければと考えています。

西部方面の会

では、第3回目の会合で申し合わされた活動の方針「キャラバン隊はゆく」から、まちづくり最前線の視察交流会を行っています。

第4回は、2月7日(土)「ひなた山地区」(瀬谷区南瀬谷、泉区上飯田・和泉町)。第5回は、5月16日(土)「天王森泉公園」(泉区和泉町)。里山の自然を活かした公園を舞台として活動されている「友の会」の工夫、知恵を学びました。3年半の時間をかけ、自然を生かした公園の建設と運営を通して、行政と市民のパートナーシップが発揮された事例として、印象に残りました。

そして今回の第6回は8月8日(土)、開園7年目に入った瀬谷区阿久和東の「長屋門公園」へ伺い、事務局長の清水さんにお話を聞きました。昨年は年間に約6万人が利用されたと聞いて一同驚き。日々の維持管理、行事などを支える方は常駐2名の他はすべてボランティアの人たち(総勢130余名)。

正月、成人式、節分祭、ひな祭り、七夕などの季節の行事や体験学習(地域の歴史を知る児童・生徒の)等、まさしく老若男女のふれあいの場。古いしつらえの中に、新しい市民利用施設として多くの試みに、楽しみながら挑まれている感じを強く持ちました。

利用される方がまず長屋門が好きになる、いとおしくなる「気持ち」をいかに持ってもらえるかがポイントとの事。伺った日の夕方、恒例の「若手落語の会」、翌週には午前「すいとん祭り」夜には「朗読の会」というように、盛りだくさん。会のメンバーは「元気」をもらい雨の中、長屋門をあとにしました。次の会合を楽しみにしながら。(大貫)

問い合わせ：西部方面世話人代行 近藤 331-0233

南部方面

では、横濱金澤地域総合研究集団と港南まちづくり塾の主催で「横浜南西部NPOネットワーク連続講座」を開催し、これまでに金沢・港南それぞれの活動や戸塚区舞岡の事例、鎌倉市NPOセンター、世田谷区の玉川まちづくりハウス、かながわ県民活動サポートセンターなどNPO活動やその支援のあり方について学習を重ねています。またこれらの連続講座を通じて「地」に足のついたNPO支援のための場のネットワーク形成をめざしており、10月11日(日)に開かれる「円海山ネットまつり」ともつながっています。

「横浜南西部NPOネットワーク連続講座」次回は11月8日(日)午後2時より「岩手県東和町のエコミュージアム構想」です。問い合わせ：

港南区地域振興課 加藤 TEL045-847-8392

金沢区政推進課 相原 TEL045-788-7727

<円海山ネットまつり>

日時：10月11日(日)10:00~15:30(雨天の場合は18日)

場所：円海山緑地の各地

横浜市南部の大きな森のかたまり「円海山緑地」のいたるところで、森・川・まちで活動している市民グループなどが自然を体験するイベントを開催

横浜自然観察の森(メイン会場)

森で活動しているグループのパネル展示・緑日風パフォーマンス・森の恵みのお店やさん・これからの円海山を考える青空シンポジウムなど

参加費：無料

連絡先：〒247-0013 横浜市栄区上郷町1562

横浜自然観察の森 TEL. 045-894-7474

FAX. 045-894-8892

中部ブロックの集まりが、去る7月26日(日)

午後2:00より県民サポートセンターで行われました。前日のよこはま川のフォーラムの余韻が残る人達や当日午前中、川のフォーラム参加イベントを行ってから駆けつけた人が、中部ブロック...鶴見区、神奈川区、西区、中区、南区内の市民として市民活動に関わりながら日常感じていること或いは1つのブロックとして見つめなおしながら、それぞれの区を地理的、歴史的、構造的に生活人の目で見てみると驚くほどの共通な問題、課題、宿題があることを確認しました。

これを踏まえて、ひと・まち横丁展に参加、不参加を問わず広く中部ブロック内の市民グループにこの会合参加を呼びかけることにし、8月8日(日)に、

- ①何故、市民活動を始めたのですか？ 目的、動機、きっかけ
- ②住みごこち、居ごこち？ 居住歴、問題、課題
- ③活動をビジュアルに表現する写真を用意
- ④私にとってまちづくりとは？

以上を、ポストイットを使用して、中部ブロック全体の考えをまとめることになりました。

...はじめのいっぽ、次ぎの一步、それから、真ん中GO(5)区...

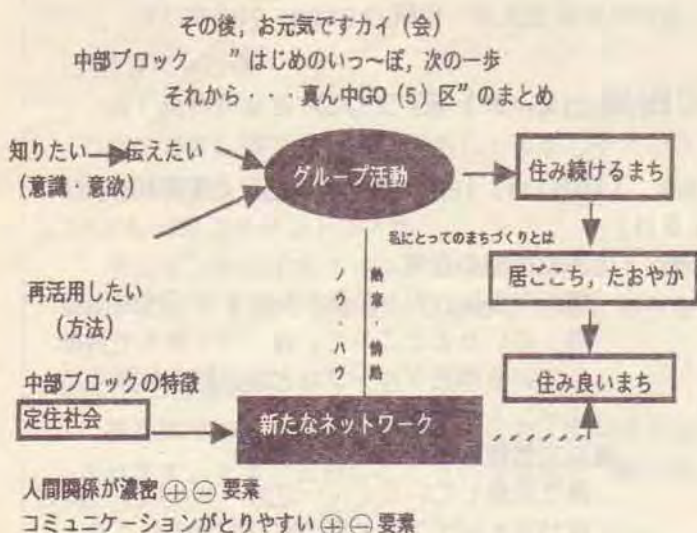
(中部方面 南区呼びかけ人 鈴木 佳昭)

今後の予定

9月23日(祝日) 10:00~13:00 サポートセンター #708

- ・話題提供(予定)・大岡川まちかわ衆
- ・リサイクラー会議
- ・福祉フォーラムその後

問い合わせ：中部世話人 嶋田 623-4550



横浜北部方面 (青葉・港北・都筑・緑区)

では、昨年12月に「横浜丘の手ふるさとづくり21フォーラム」を開催し、約160人が参加して、横浜丘の手にふるさとづくりを進めるためのディスカッション・活動紹介を行い、今後も「輪」づくりを進めていこうという宣言を採択しました。

これはその後「横浜丘の手サロン」というかたちで続いています。各区の運営委員が持ち回りでサロンを企画。第1回目は青葉区が担当、6月6日にドイツやイギリスなどの住民参加の先進事例に学ぼうという学習会を実施しました。

次回は都筑区で、10月4日(日)「横浜丘の手のまちづくりへの思い」ワークショップを予定しています。

問い合わせ：北部世話人 福富 942-3480

よこはま川のフォーラム報告

7月25日に行なった「よこはま川のフォーラム」は、普段から水辺で活動する市民団体が、それぞれの持ち場で一斉に活動(イベント)を行い、その日の成果をメイン会場に持ちよって発表し、身近な川や水辺をアピールしたものです。

イベントというと、実行委員会に参加した人達が、一個所で行う新たな大規模な催しを企画し実施するのが普通ですが、今回のこのフォーラムは、普段の活動の延長線上で考えたもので、各団体の日頃の活動をネットワークし、催し全体を支える構成になっています。

第1部の実施会場・22箇所、参加者1,000人以上、第2部のネットワークフォーラムにも150名もの参加者があり、第一部での「活動報告」を各団体が趣向をこらして発表し、会場が一体となって聞き入っていました。これだけの市民が、一同に会して普段の持ち場の様子や活動を発表しあうというのは今迄になかった事だと思います。また、神奈川県・横浜市の河川関係者との意見交換も活発に行われ大変大変有意義な時間を過ごしました。

いつも話には聞いていた他の地域の活動も、この日起こった出来事の報告を直に聞くことで大変身近に感じるとともに、それぞれの地域でこれほど多くの活発な活動がなされている事を知り、市民の足元の地道な活動が、地域の環境保全や川づくりにとって無くてはならないものであるとあらためて実感しました。

今回のフォーラムで、活発に活動する多くの人達と直接出会えた事、そして普段会う事は少なくとも、必要な特には協力していこうという事をお互いに確認した事が、大きな成果だと考えているのは、けっして私一人ではないのではないのでしょうか。

(よこはま川のフォーラム実行委員会事務局長 平山康弘)

全国雑木林会議 in よこはま

横浜の森づくりグループのネットワーク「よこはまの森フォーラム」では、今秋「全国雑木林会議」を横浜に誘致し、横浜市共催で開催することになりました。

市民による森の手入れ、育成の活動は全国に広がりつつありますが、お互いのことを知り合って勇気づけられたり、励まし合ったりするのがこの会議の目的です。6年目を迎える今年はこれまでの開催地の中でもとくに人口が密集した大都市横浜で、どうやって市民が森とかかわっているかをお見せするとともに、今後の人のかかわり方を議論したいと思います。

日時・場所：

10月30日（金）

10:00～エクスカージョン（舞岡公園、横浜自然観察の森等）

10月31日（土）

9:30～都筑公会堂（市営地下鉄センター南）

- ・かけあい討論「どうする、都市の森」
- ・フィールドワーク（森の手入れを体験しよう）
- ・全国交流会

11月1日（日）

9:30～武蔵工業大学よこはまキャンパス（市営地下鉄中川）

- ・10の分科会
- ・ワークショップ（森の恵みを活用した木エコーナ

ーなど）

参加費：エクスカージョン4000円／会議2000円（1日のみ1000円）／交流会3000円

連絡先：〒231-0007 横浜市中区弁天通り2-26
アリスセンター内 よこはまの森フォーラム
TEL045-212-5835 FAX045-212-5826
先着600人

<みんなで語ろう市民活動>

これからの市民活動はどうあるべきだろう？市民活動と行政はどういう関係にあるのか？などなど、活動しながら普段思っていること。一緒に考えてみませんか？

日時：10月7日（水）

午後6:30～8:30 基調講演「市民活動推進検討委員
中間報告から」パネルディスカッション「今後の市民活動と行政との協働のあり方を考える」

場所：フォーラムよこはま（ランドマークタワー13F）

参加費：無料（申込み受付は9月30日まで。多数の場合はお断りすることがあります。）

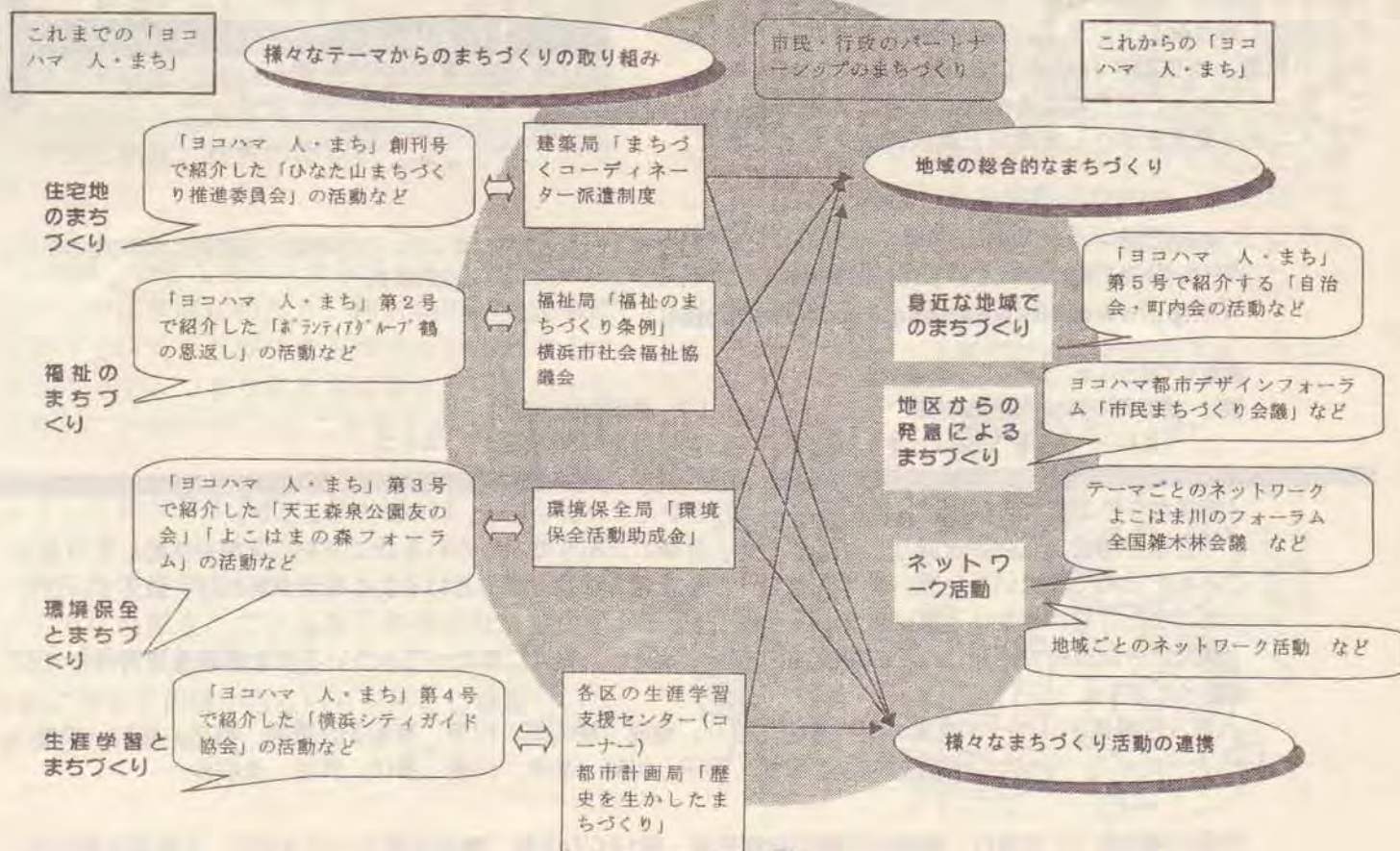
申込先：横浜市市民活動推進検討委員会事務局

（市民局地域振興課）TEL. 045-671-3682

FAX. 045-664-0734

*「市民活動推進検討委員会」は、市民活動が行いやすい環境を早急に整備し、連携のあり方を検討するために平成9年10月に設置されました。現在、市民活動と行政の協働のあり方について検討をすすめています。平成11年3月に最終提言を行う予定です。

まちづくりにおける「ヨコハマ 人・まち」の位置づけ





第2回

ヨコハマ都市デザインフォーラム

YOKOHAMA URBAN DESIGN FORUM

横浜市は、都市の自立を大きな目標とし、横浜らしい都市活力と魅力ある都市空間の形成に向け、過去30年にわたって都市デザイン活動に積極的に取り組んできました。

こうした横浜の取り組みを踏まえ、平成4年にアジア初の都市デザインに関する国際会議として「第1回ヨコハマ都市デザインフォーラム」を開催し、まちづくりの新しい波として「都市の文脈を継承するまちづくり」や「市民、企業、専門家、行政のパートナーシップによるまちづくり」などについて議論しました。

21世紀を目前に控え、大都市は数多くの課題に直面し、従来の都市づくりの転換を求められています。こうした状況を踏まえ、この秋第2回「ヨコハマ都市デザインフォーラム」を開催し、「横浜及びアジア・太平洋各都市の21世紀に向けたまちづくりの目標や方策」について幅広く議論します。

(会議プログラム)

今回は地域の具体的な課題を踏まえて「地域会議」を開催し、まちづくりに関する地域からの発想、歴史や自然といった資産を生かしたまちづくりなどについて、市民を交えた議論を深めます。

この中で金沢区は、鎌倉時代からの歴史や豊富な緑と海と川からなる多彩な水環境など、魅力あるまちづくりの材料となる多くのアメニティ資源を有しています。このような資源に着目し、活用の道を探る市民団体の活動が展開され、また、市民・企業・行政・専門家が連携し、まちづくりに向けて動き始めています。金沢地域会議では、「地区からの発想」が実践され始めている金沢区をフィールドに、ワークショップ形式による参加者自身の体験を通して「アメニティ資源を活かした地域と地区の将来像」「地域

文脈の再発見と再構築」について議論します。

また、「市民まちづくり会議」では、「地域発意をまちづくりにつなげる」をテーマに、横浜市の事例を中心に、他都市とも比較しながら議論する予定です。

問い合わせ： 第2回ヨコハマ都市デザインフォーラム実行委員会事務局 TEL045-223-2525

11月20日[金]パシフィコ横浜会議センター	
11:00~	受付
13:00~15:00	開会セッション[開会式・基調講演]
15:30~17:00	市長セッション
17:30~19:00	横浜市長主催ウェルカムレセプション

11月21日[土]パシフィコ横浜会議センター			
9:30~12:30	セッション A-1	セッション B-1	セッション C-1 [シティネットセッション] アーバン ツーリズム [観光と都市空間]
	新しい時代の 大都市像とその 構造的課題	地区からの発想と まちづくりの進め方	
14:00~17:00	セッション A-2	セッション B-2	セッション C-2 [シティネットセッション] 歴史文化資産を 活かした 魅力あるまちづくり
	大都市 中心市街地の 再生手法	まちづくり システムの今後	
18:00~20:00	市民まちづくり会議		自治体まちづくり会議

11月22日[日]地域会場			
地域会議 関内・みなとみらいZ1・ 横浜駅周辺地区 中心市街地の 再生そして創造	地域会議 金沢区 地域の 新たな文脈を培う	地域会議 都筑区 [港北ニュータウン地区] 郊外部の特長的 まちづくりを考える	
9:30~12:00	現地見学	現地見学	現地見学
13:00~17:00	ディスカッション 関内新井ホール	ディスカッション 横浜国立大学	ディスカッション 武蔵工業大学

11月23日[月・祝]パシフィコ横浜会議センター	
9:30~12:30	総括会議[地域会議の報告と総括]
14:00~16:00	閉会セッション[全体総括討論・大会宣言]
16:30~18:00	フェアウェルパーティー

横浜市のホームページの中に「ヨコハマ 人・まち」のホームページを開設しました。この印刷物とほぼ同じ内容のものがインターネットでご覧になれます。インターネット版では、バックナンバーもごらんになれます。

(<http://www.city.yokohama.jp/me/hitomati>)

編集：「ヨコハマ 人・まち」編集会議

発行：横浜市都市計画局企画調査課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL 045-671-3512 FAX 045-663-3415

編集後記

皆様からのご意見を参考に、紙面構成・内容をかえてみましたが、いかかでしょうか。

今回は自治会・町内会を取り上げましたが、皆様のまわりでもいろいろな工夫をしながら活動しているところもあるのではないかと思います。もし「こんなところもある」というような話があれば、教えていただければまたご紹介したいと思います。

また、今回改めて紹介したこの情報誌の主旨に賛同し、編集に加わってみたい方は企画調査課賀谷までご連絡ください。

第5号編集メンバー：大貫 浩、片山 啓介、金成 耕太郎、川澄 真知子、重岡 昭男、谷口 和豊、松井 祐子、三代 裕子、川崎 あや、川瀬 泰代、賀谷 まゆみ